



氏名 林久恵

年齢 46

所属 愛知淑徳大学健康医療科学部

立候補の趣旨

理学療法士は、糖尿病のチーム医療において糖尿病の重症化予防に向け、慢性合併症の管理や下肢機能・活動量を維持する役割を託されています。

糖尿病足病変は、糖尿病の慢性合併症の一つであり、糖尿病患者の下肢切断原因の8割以上を占めることが知られていますが、足部潰瘍（創傷）治療過程における下切断予防（重症化予防）に向けた理学療法士の関わりがチーム全体の治療のゴールを高めることが分ってきました。

「職能に資するエビデンス研究」（2019年3月報告書公開）では、11施設の協力の下、入院加療が必要な糖尿病足病変（虚血性潰瘍含む）を有する367症例に理学療法を行った結果、退院時の移動能力に改善が見られたことを報告しました。

上記調査を進める過程で、創傷や末梢循環障害の重症度を記録する方法が施設毎に異なっていることや、主要な評価項目について施設間で差があることに気づきました。理学療法の役割を他職種に理解してもらうためには、この点の統一が不可欠であると考え、現在関連学会のコホート研究に理学療法士として参画しています。

糖尿病足病変に対する理学療法については、引き続き多面的に効果検証を進める必要があります。しかし、本邦の診療体制は足潰瘍治療の担当医が外科から内科まで多岐に亘っており、施設毎に治療方針も異なるため、この壁を超えて、理学療法の効果検証に挑むこととなります。

理事として関連学会との連携を促進するとともに、学術大会準備委員として学会員の皆様と共に学術活動や意見交換を積極的に行っていきたいと考えております。

役員歴

平成25年	10月～	現在	日本糖尿病理学療法学会,	運営幹事
平成26年	2月～	28年5月	日本糖尿病理学療法学会,	学術大会準備委員
平成29年	12月～	31年4月	日本糖尿病理学療法学会,	分担研究員
平成30年	10月～	令和元年9月	日本糖尿病理学療法学会,	学術大会調整委員
令和元年	10月～	現在	日本糖尿病理学療法学会,	学術大会準備委員
令和3年	6月～	現在	日本糖尿病理学療法学会,	理事、国際部員